

RITA

利他の心で

教育を変える

中身がぶち壊しになる

vol.

13

稲盛哲学 による 学校教育

利他のDNAを
世界へ、
そして未来へ



君の思いは必ず実現する

京都市立桃山中学校での講演（提供：京セラ株式会社 稲盛ライブラリー）

「思う」ということを大事にして生きてほしい

こんにちは。私は桃山中学校の近くの桃山島津町に住んでいて、しょっちゅう校門の前を車で通っています。地元として大変愛着をもって、この中学校を眺めています。

今回、講演をすることになったのは、校長先生が大変ご熱心だったからです。私の家まで何回もお越しになり、「何としても子どもたちに話をしてくれ」と私の家内に話をされました。家内がその素晴らしいお人柄と情熱にほだされ、「どうしても」と熱心な校長先生がおっしゃるので、ぜひ行つてあげてください」と言われ、本日講演することになりました。

地元として同じ町に住む、中学校の在校生の皆さんに、どんな話をし、てあげればいいのかと考えましたが、「思い」について話をしてみたいと思います。

皆さんは、学校で一生懸命勉強されています。われわれは勉強をするとき、頭、脳を使って思索をする、または考えるということをしていきますが、今からお話するのは、頭で考えるのではなく、「思う」ということについてです。

思うということは、頭でするではありません。「心に思い描く」という言葉があるように、頭とは関係のない「心」ですることなのです。これはとても大切なことです。皆気がついていません。学校で勉強する場合を考えてみても、頭が良いことは非常に大事だと言われますが、思

うことが大事だとは言われません。

今日は、思いというものが、個々人の人生にとってどれだけ大事なことかということをお話ししますので、それを心していただき、思うということをお大事にして、人生を生きていただきたいと思えます。

人間の心には「利己」と「利他」がある

われわれは日々、いろいろなことを思うわけですが、その大本である心を深く掘り下げると、一番奥底に「真我」と言われる、良心のかたまりのようなものがあります。その周囲に、自分だけよければいいという、えげつない「本能」というものがあります。言葉を換えると、良心というのは、他を慈しみ愛する、優しい思いやりの心、利他の心のことです。本能とは、自分だけよければいいという利己的な心のことです。その2つが、どんな人の心の中にも同居しています。

ですから、われわれが思いを描くとき、どちらが作用して形づくられたのか、ということが問題です。皆に対して優しい思いやりをもつ、美しい利他の心から思うことと、本能、つまり自分だけよければいいという、いやしい利己的な心で思い描くことの2つがあるわけです。

日々抱く思いが積み重なって「人柄」となる

われわれには、このように2つの思いがあるわけですが、私はその中でも、優しい思いやりに満ちた利他の心で描く思いが、人生を大きく左右

していくと思っっています。

われわれは、思いというものはたいしたものではないと思っっています。しかし、思いがその人の人柄をつくっていきます。

例えば、「あの人は嫌だ」「あの人は生意気だ」というように、日常に思っっていることが積み重なり、人柄になってしまいます。自分だけよければいいと思ひ、威張ったことばかりを思っっている人は、えげつない人柄になります。逆に、大変優しい、思いやりに満ちた思いをもっている人は、優しい人柄になっていきます。つまり思いというのは、その人の人格、人柄をつくっていくという、大変大事なもののなのです。

イギリスのジェームズ・アレンという人が、こういうことを言っっています。

人間は思いの主人であり、人格の制作者であり、
環境と運命の設計者である

思いというものは、その人の人格をつくり、同時に環境や運命までつくっていくということです。あまり気づかれていませんが、大変大事なことだと思っっています。

思いが現代文明、そして未来をつくる

思いというものが非常に大事なことだということを、時代をさかのぼって考えてみると、これが近代の文明社会をつくった元だと思っっています。今から250年ほど前の産業革命以来、人類は次々と発明、発見をし、科学技術を大変発展させました。そして現在、豊かな文明社会を築いていきます。

例えば、「もっと便利なものが欲しい」「早く移動したい」または「鳥のように空を飛びたい」という、ふとした思いから、実現するにはどうすればいいかを、いろいろな人が頭で考えて研究し、飛行機や自動車をつくってきたわけです。

近代文明は、「こうありたい」という、人類のふとした思いが出发点です。そういう点を考えても、大変大事なものです。私は人類の未来も、思い

というものがつくっていくと思っっています。

葛藤する「利己」と「利他」

その思いというものが起こるのが、先ほど言った「心」なのです。心には、立派な、優しい思いやりに満ちた良心または理性、さらには真我というものがあります。これは、心の一番奥にある美しい立派な心です。

その横に、本能というものががあります。これは、人間がその肉体を守るようにするため、神様が与えてくれたものです。肉体を守るためには、食べ物も着るものも要ります。そのように、自分だけよければいいという、非常に利己的な思いが本能の中心なのです。

「皆のため」と願う美しい心また良心と、「自分だけがよければいい」「自分がたくさん食べ、健康を維持していきたい」と願う心、私はこれらを利己的な心と利他的な心と呼んでいます。「皆がよければいい」というのは利他であり、「自分だけよければいい」というのが利己です。私は、この2つの心が同居していると思っっています。

このことについて、インドのタゴールという人が詩を残しています。読ませてもらいます。

私はただ一人、神様のもとにやってきました

しかし、そこにはもう一人の私がありました

その暗闇にいる私は、一体だれなのでしょう

私はその人を避けようとして、脇道にそれますが、

彼から逃れることはできません

彼は大道を練り歩きながら、地面から砂塵をまきあげ、

私が慎ましやかにささやいたことを大声で復唱します

彼は私の中に住んでいる、卑小な我、

つまりエゴなのです

主よ、彼は恥を知りません

しかし、私自身は恥じ入ります

このような卑小なる私を伴って、

あなたの扉の前に来たことを

神様の前に行ったとき、恥ずかしく薄汚い、別の自分が一緒についてきました。そのことを神様におわびしていると、タゴールは歌っています。

心を手入れする

イギリスの哲学者であるジェームズ・アレンは、心について、このように言っています。

人間の心は庭のようなものです。それは知的に耕されること
もあれば、野放しにされることもありすが、そこからは、ど
ちらの場合にも必ず何かが生えてきます。

もしあなたが自分の庭に、美しい草花の種を蒔かなかつたな
ら、そこにはやがて雑草の種が無数に舞い落ち、雑草のみが生
い茂ることになります。

すぐれた園芸家は、庭を耕し、雑草を取り除き、美しい草花
の種を蒔き、それを育みつづけます。同様に、私たちも、もし
すばらしい人生を生きたいのなら、自分の心の庭を掘り起こし、
そこから不純な誤った思いを一掃し、そのあとに清らかな正しい
思いを植えつけ、それを育みつづければなりません。

素晴らしい環境を周囲につくるには、「自分だけよければいい」という、
利己的でよこしまな心を抑え、思いやりにあふれた、美しい利他の心が
大部分を占めるよう、「心の庭」を手入れしなければならぬ、と言って
います。人間の心は、庭のようなものです。どうあるべきかということ
を意識し、コントロールしなければ、雑草の種が舞い落ち、雑草が生い
茂る庭になっていきます。

ですからわれわれは、立派に耕し、よい草花の種を蒔いて、きれいに
咲くようにする、つまり自分の心が善くなるように手入れをしなければ
ならないと言っているのです。

心は大変大切なものです。実は人生も、それぞれの人が描く思いによつ
て、決まってくるのです。

自分が置かれている環境、境遇、そのすべては、他でもない、今まで
抱いてきた思いが集積されたものがつくっています。われわれは「私はな
んと不幸な人間なんだろう」「なんでこんな目にあうんだろう」とつい思っ
て、人のせいにしがちです。ですが、心で抱いた思いの結果が、現在置か
れている境遇をつくり、その人の人柄、人格までもつくっています。で
すから私は、ジェームズ・アレンを読み、なおのこと思いは大事だと思っ
ています。

どのような「思い」をもたなければならないか

思いというものは大変大事であり、善い思いを抱くべきです。しから
ばどういう思いでなければならないか。それが、世のため人のためとい
う思いです。自分のためだけでなく、世のため人のためということが、
大変大事なのです。

後で詳しく話をしますが、京セラをつくり発展させていく過程で、皆
さんがお使いの携帯電話a uというブランドを扱っているKDDIという
会社を、ゼロからつくりました。先般は、倒産した日本航空を再建いた
しました。そういうものを成し遂げていったのが、私の思いでした。

実は、中村天風という大変有名な、ヨガの聖人と言われた方がいます。
ヒマラヤ山中でヨガの修業をされ、日本に帰ってこられ、波乱万丈の人生
を送った人です。

明治時代に生まれ、良家の出身ですが、若い頃から手に負えない、大
変な暴れん坊でした。腕力があり、日本刀を使わせたらかなう者はおらず、
日露戦争が始まる前に満州へ行って、「人切り天風」と言われるくらい勇
名をはせました。ところが、日本に帰ってから、猛烈な結核にかかってし
まいます。血を吐く重い結核になってしまい、強かった天風さんは、へな
ちよこになってしまいました。

天風さんは、なんとか病気を治そうと海外まで行って、ヒマラヤ山中
で最高のヨガの修業をされて、帰国されました。日本では、銀行経営な
どいろいろなことをし、成功されたのですが、晩年はそういうものをす
べて投げ捨て、東京で辻説法をされました。街をゆく人たちに、「人生は
こうあるべきですよ」ということを、一生懸命、説かれたのです。

先ほど思いというのが大事と言いましたが、天風さんも、何をするにしてもこういう思いでやりなさいと言っています。

新しき計画の成就是只不屈不撓の一心にあり
さらばひたむきに只想え気高く強く一筋に

新しい計画を考え、成功させようと思うのであれば、ただ不屈不撓の一心、つまり矢が降ろうと雨が降ろうと、何があるうとくじけない心が必要です。そうであるがゆえに、ひたむきに一生懸命にただ思え、それも気高くきれいに強く一筋に、と天風さんが言っています。もう1回言います。これはぜひ、今日覚えて帰ってほしいと思います。

皆さんは中学卒業後、さらに上級の学校へ行かれるでしょうし、その後は社会へ出ていろいろな経験をし、家庭をもつと思います。そういう新しい計画を立派に果たすには、どんなことがあるうと曲げない、強い意志が必要です。そうであるがゆえに、ひたむきにただ思う。それも、気高く強く、美しい思いを一筋に抱く。私はそれが大変大事なことだと思います。

松風工業でも不屈不撓の一心で研究した

私は、ここから北の方に見える京セラという会社を、27歳のときにつくっていただきました。私は、鹿児島大学を1955年に卒業しました。1945年に第二次大戦が終わって、日本の各地は焼け野原になっていました。終戦からわずか10年しかたっていないときに、大学を卒業して社会に出たわけですが、なかなかいい職がなく、先生のご紹介で、松風工業という、京都にある会社にやっと就職できました。

その会社は、電力線の絶縁をする碍子をつくっていた会社です。終戦後ずっと赤字続きで、私が入った月も、給料が払えないから1週間、給料日を延期するというような状態でした。

そういう会社に、一緒に5人大卒が入ったのですが、皆不平不満ばかりでした。4月に入社して、秋口には5人のうち4人が「給料が1週間も2週間も遅れるボロ会社は嫌だ」と言って辞めていきました。私は鹿

児島から出てきましたので、会社の寮に住んでいました。会社から帰ってきた後は、自分でご飯をつくって食べ、ただ寝るだけという生活を送り返しているうちに、秋口には、私一人になってしまったのです。

社員皆は不平を言っていました。私は「なんとかこの会社を立派にしなければならぬ」と思いました。ちょうど研究室に配属になりましたので、「これからエレクトロニクスの時代が必ず到来するだろう。そのエレクトロニクスの世界でたくさん使われ、新しい時代をつくっていくファイナセラミックスをつくりたい」と、研究開発を始めました。大変粗末な研究室で、立派な設備はなかったのですが、そこで一生懸命努力をしました。

寮に住んでご飯を炊くのでは間に合わなくなったので、鍋や釜を研究室に持ち込みました。そこで自炊をし、研究に打ち込みました。
先ほど中村天風さんが言われたように、

新しき計画の成就是只不屈不撓の一心にあり
さらばひたむきに只想え気高く強く一筋に

まさにこれを地でいったわけです。当時はまだ知らなかったのですが、そうせざるをえなかったわけです。

何としても、新しいファイナセラミックスの材料を完成し、社員や会社を救ってあげたいという、とてつもない希望、思いを抱いて、一生懸命努力をしました。その結果、大変難しい研究でしたが、日本で初めて、ファイナセラミックスの開発に成功しました。それはアメリカで最も進んだ、ゼネラルエレクトロニクス（GE）社よりも優れたものでした。私はさらに研究し、次から次へと新しいファイナセラミックス材料を開発していきました。

思ったことを一生懸命、一途に努力すれば、

どんなこともできる

その結果、京セラという立派な会社をつくることができました。京セラという会社は、私の研究を高く評価してくださった方々から、「君がやつ

ているファインセラミックスをベースに、新しい会社をつくってあげるから、そこでもつと立派な仕事をしたらどうか」というお誘いがあって、設立された会社です。松風工業の小さな研究室で、鍋釜を持ち込んで研究した成果をベースにつくられたのです。

松風工業では、鍋釜を実験室に持ち込み、炊事をしながら研究したと言いましたが、その食事とは、小さな七輪で炊いたご飯と、刻んだネギの葉っぱを入れた味噌汁だけでした。それを朝昼晩と食べ、研究に打ち込んでいったのです。何としても今やっている研究を完成させたい。何百人という社員の将来を救ってあげたいと思い、一生懸命努力をして、次から次へとファインセラミックスの研究開発をしました。

この会社で、人がつくれない新材料の開発を成功させ、この会社を救ってあげたい。従業員皆が、喜んで生活できるようにしてあげたい。まだ大学を出て間もないくせに、生意気にもそういう思いを強く胸に抱いています。

それが原動力となって、研究は成功していきました。また、私の努力と成果を見た人たちが、「せっかくなこまでやってきたのだし、会社をつくってあげるから、そこでもつと実力を発揮したらどうか」と言って、一銭も持っていない私のために、京セラをつくってくださいました。

京セラは、現在、今期の売上が1兆5000億円を超え、利益が1000億円を超える素晴らしい会社になっています。立派な製品をつくりあげ、会社を救いたいという私の若いときの思いが、現在の素晴らしい会社をつくってきました。思うということには、大変な力があります。思ったことを、一途に達成しようすれば、どんなことでもできるのです。

国民のため通信料金を安くしたいという純粋な思い

もう一つ例をあげると、現在のKDDIは、30年ほど前に電気通信事業の経験も知識もなかった私がつくったものです。当時の日本では、通信や電話はNTTが独占していました。独占では通信料金は高止まりしてしまうので、競争条件を入れることによって、何としても通信、通話料の料金を下げたいと思っていました。

NTTは明治以来ずっと電話を独占していましたので、大変な技術力、財務力をもっていました。自由化したといっても、挑戦しようという会社はありません。私は「このまま一社独占が続いたのでは、国民のためにならない。なんとか競争を挑んで、料金を安くしてあげなければ、国民のために良くない」と思って、無謀にもNTTに対抗することを考えました。

当時、京セラは京都の中堅企業でしかありませんでしたが、東京で経済界の人たちに、「NTT独占であっては日本の通信は決して成長していきません。対抗できる新しい会社をつくって、日本の通信業界に刺激を与え、通信料金を安くしていかなければならない」と説き、賛同をもらいました。

当時のSONYの盛田社長などいろいろな人たちが協力してくださり、現在のKDDIの前身である第二電電という会社ができました。そこから、京セラが主体になって、第二電電、現在のKDDIをつくりあげていきました。

日本の国民のため、電気通信料金を安くしてあげたいという純粋な思いからではありませんが、大変難しいいばらの道だということは承知の上でした。美しい思いを抱き、天風さんの言葉にあるように、ただひたすら一生懸命、真つすぐに信じて努力をしていきました。その結果、第二電電を成功に導いていったのです。

余談ではありますが、京セラは第二電電をつくった当時から大株主で、現在もKDDIの筆頭株主として、時価に換算すると約1兆円の価値の株式もっています。第二電電という会社をつくって、京セラが筆頭株主になった結果、素晴らしい資産をつくりあげたのです。これも、思いというものが大変大事であることの例として申し上げます。

「思い」の力はわずか3年で会社を再建した

日本航空も、再建してほしいと言われたものの、私は何回も断りました。ですが、「世のため人のためになることをするのが人間として最高の行為であると、あなたはいつも言っているではありませんか。難しいかもしれませんが、再建に力を貸してほしい」と政府に頼まれ、私は引っ込みが

つかなくなりました。

航空運輸業は門外漢であり、自信がなかったものですから、「3年間精魂を込めて再建に取り組みますが、お金は一銭も給料も要りません。無給でやらせていただきます」と言って引き受けたのです。

私が日本航空を再建したのは、3つの大義があると思ったからです。まず、JALが倒産してしまえば、日本経済に大変悪い影響を与えます。2番目に、日本航空に在籍する3万2000名の社員の雇用を守ってあげる必要があります。さらに、日本航空が無くなり、航空会社が1社だけになってしまえば、値段が高止まりして、飛行機を利用する国民の利便性が失われてしまいます。

当時私は80歳を前にしており、高齢ではありますがなんとか頑張ろうと思いました。そこで先ほど言いました、

新しき計画の成就是只不屈不撓の一心にあり

さらばひたむきに只想え気高く強一筋に

という天風さんの言葉を、社内にたくさん貼り出しました。また、こういう考え方で私はやっていますので、皆さんも同じ思いでやっていただきたいと申し上げ、やってきました。

そして、わずか3年に満たない短い期間で、倒産した日本航空を再建できました。東京証券取引所に再上場して、大変高い株価を維持できる、新しい立派な会社にすることができました。

心をきれいにし、一生懸命努力すれば、 思いは実現する

そういう実例もあるだけに、この中学校で勉強される皆さんに、「思い」というものがないへん人生にとって大事だということを、今日は伝えたくてまいりました。

先ほども言いましたが、皆さんが心に抱く思いというもので、その人の人柄がつけられていきます。つまり、えげつない人柄になるのは、常に自分の心に、えげつない思いを抱いているからです。「あの人はいい人だ」

「立派な人だ」と好かれる人柄になつていこうと思うならば、常にいい思いを抱く努力をしていくのです。

学校では、頭を使って勉強しなさいとよく言われますが、「心をきれいにしていましょう」「心を整えましょう」とは、なかなか教わりません。これは、他人から言われるようなことではありません。自分自身で、きれいな美しい心になる努力していくべきなのです。それが、その人の人柄をつくっていきます。

皆さんは今後、中学校を卒業され、次の上級の学校に行かれて、やがて社会に出られますが、社会に出たとき、人柄というものは大変大事です。仲間から「あいつはあの人はいい人だ」と思われるのか、「あいつはけしからん」「あいつはえげつない」と思われるのか。社会に出ていくまでの間に、自分は、心の中に描いた通りの人柄になつていくということを、今日は皆さんに申し上げておきます。

心がつ力は大きいということを肝に銘じていただき、自分の心に、美しい思いを常に思い描いていただければと思います。いい人柄というのは、利他の心です。優しい思いやりの心が、常に出てくるようにする。えげつない、自分だけよければいいという利己の心ではなく、他を慈しみ愛する、美しい利他の心を常に描いていきさえすれば、人柄は立派になつていきます。

いい思いを心に描いて、いい人柄になつていく。同時に、素晴らしい思いを描いて、達成するために一生懸命努力すれば、その思いは必ず完成します。今は小さなお店だけ立派な会社にしていきたいと、強く思つて必死に努力をしていく。その思いを実現するために、ひたむきに、一生懸命に努力をしていけば、必ず成功します。皆さんには、心というものを大事にし、立派な人生を送つていただきたいと思ひます。

うどんのお話から学ぶ「善き心」。

立命館小学校・「心づくりの授業」利他の心

利他の心をベースに、人間としての生き方を問う稲盛哲学を、小学校教育にどう活かせるか？

RITA LABOの長谷川昭研究員が、この命題に正面から向き合い、開発に取り組んだのが「心づくりの授業」です。

2016年7～9月には、立命館小学校の全学年で、

稲盛哲学の6つのキーワードを基にしたパイロット授業を実施しました。

長谷川研究員の「心づくりの授業」への思いと、2016年7月に

立命館小学校1年生に実施した「利他の心」の授業の様子を紹介します。

開発への思い

道徳の教科化にともない、評価評定に注目が集まっていますが、私は「何を教え、何を身に付けさせるか」、つまり、授業や教材の内容をこそ、しっかりと見直すべきと考えています。そのためには、現在の「心を育てる」という発想よりも、そのベースとなる「人としての気構えの基本」となる、「心をつくる」という発想が重要なポイントとなるのではないのでしょうか。

その観点から私は、稲盛和夫氏の唱える経

長谷川 昭
RITA LABO 研究員
立命館小学校 副校長

営哲学やそれに基づいた人間としての生き方指南は、大変注目すべき教材、学びとなると考え、「心づくりの授業」の開発を始めました。具体的には、稲盛経営哲学の中から、利他・精進・働く・生きる・感謝・愛と調和・正義・人生と仕事・辛抱・真剣・一生懸命・素直・努力と情熱など23のキーワードに着目・抽出し、それをもとにした授業を考えることにしました。

この学びが、未来を担う子どもたちが、正義感を持って、真剣に物事に立ち向かい、利他の心を持って互いの幸せを考え、世のため人のために真っ直ぐに人生を歩んでいくための一助になればと思っています。

授業のねらい

1年生
「利他の心」

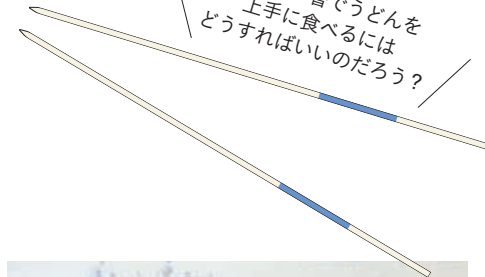
1. 「利他の心」とは、何かを考えさせる。

2. 「利他の心」が自分や周囲の幸福につながることに気づき、実践につなげる。

地獄と極楽の世界における「うどん」の寓話を通して、「思いやりと優しさ」の心構えが人として不可欠なものであり、その心を大切に持つ「善きこと」を思い、善きことを行えば、「善き道が開ける」という、人としての生き方につなげていきます。

人の幸せを自分の幸せと感じられる優しさ、人の悲しみを自分の悲しみと感じられるような思いやり、これが「利他の心」の礎です。逆に、「利

長〜いお箸でうどんを上手に食べるにはどうすればいいのだろう？



己の心」は、自分のことを第一とすること。本授業では、それらの意味や、「利他の心」が自分の周りの幸福と更には自分自身の幸福にもつながるという考え方に気づき、日常的に実践していく姿勢や態度を育てていきたいと考えます。

パイロット授業の各学年の単元名

- 1年生：利他の心
- 2年生：何があってもありがとう～感謝の心～
- 3年生：足を知る
- 4年生：考え方ひとつで、人生は変わる
- 5年生：日々、顔を洗う
～反省するは、心を磨くこと～
- 6年生：人生・仕事の方程式

※授業は立命館小学校独自の道徳授業の時間である「立命科」の時間を実施されました。

「心づくりの授業」利他の心

児童（以下「児」） これから、立命科の授業を始めます。はい、よろしくお願ひします。

長谷川（以下「長」） やる気が伝わってうれしいなあ。さて、今日勉強することは、これです。

▼板書《ころ》

児 こ・こ・ろ？

長 みんなにも、ころろってありますよね。

児 はい、あります。

長 ところで、「ころろ」って何ですか？

児（胸を指して）「ここにがあるもの」「大事なもの」「大切なもの」「思うところ」「考えるところ」「気もち」

長 そろ。例えば良いことを思ったり、悪いことを思ったりするね、「ころろ」でね。では、「良い心」って例えばどんなものがありますか？

児 「困っている人を助けてあげる」「だいたいようぶ？って声をかけてあげる」「一緒に遊ぼうって誘ってあげる」「ありがとうって言う」「笑顔を見せる」

▼多数出させる

長 このような良い心のことを、「善き心」と言います。覚えておいてください。では、悪い心って言えば？

児 「ひとをたたく」「仲間はずれをする」「いじわるをする」「知らん顔をする」

▼少しだけ出させる

長 これらは、善きではなく、「悪しき心」と言います。それで、今日はそんないろいろなことを思う心の中で、「こんな心」についてお勉強します。

▼板書《りたのころ》

長 この言葉知っている？ 知らないか。そろ。なら、勉強のしがいも、

よりありますね。では、聞きます。これは、善き心でしょうか？ 悪しき心でしょうか？

えーっ？

▼予想をさせる（この授業では半分半分）

長 ちょっと漢字で書いてみますね。りたの「り」は「利」。見たことある！

長 これは「めぐみ」という意味です。天のめぐみ、自然のめぐみ、めぐみの雨、という時の言葉。さらに、これには、ありがとう、という意味も含まれていますよ。

児 だったら、善き心かも？

長 では、この「りた」が、「善き心」なのか「悪しき心」なのか、もう少し考えていきましょう。

長 さて、今日は、こんなものを持ってきました。

▼三尺三寸箸をゆっくりと見せる

えーっ！? なにそれ？ 割りばし？

長 これは、実はお箸です。

えーっ！！

長 今、このお箸をぱつと見て思ったことあったね。それを言ってください。

児 「長すぎる！」「使いにくい」「なんか変」「鬼が使いそう」「あぶない」「びっくり」「おかしい」「巨人が使いそう」

長 それで、この長いお箸で、おうどんを食べようと思います。

えーっ！?

長 今、思ったことを言ってください。

児 「無理！」「大変！」「こぼす！」「うどんがつかめない」「食べられない」「びっくり」「絶対できない」

長 しかも、10人ほどのグループで、大きなお鍋



で食べようと思います。

児 えーッ!?

長 さて、困ったことはありませんか？

児 「周りが迷惑」「人がケガする」「けんかになる」「食べられない」「むちゃくちゃになる」

長 そうだね、ちよつと大変なことになりそうだね。

長 ところで、このような長いお箸が登場してくるお話を知っていますか？

児 もつたいたないばあさんの話？ 聞いたことがある。

長 では、「極楽と地獄」のうどん食いの話を聞かせてあげよう。

▼極楽と地獄の絵を提示。地獄では、我先にうどんを取り合っしまい、混乱し、結局誰も食べられない。しかし、極楽では長い箸をうまく使って、向かい側の人同士で食べさせあいをして、結局、みんな仲良く食べ合えることを伝える

長 前に出て、一度食べ方を見せるね。

▼代表児童と食べ合う場面を見せる

児 あっ、そうかあ。

長 もう一つ、みんなが知っている

『もつたいたないばあさんのてんごくとじごく』とじごくの話』も読んでみましょうか。

児 読んでほしい！

▼読み聞かせをする

長 さて問題。極楽・天国と地獄で違うことは何でしたか？

極楽＝「優しい」「相手のことを考えている」「みんなのことを考えている」「親切」「言葉もていねい」「はいどうぞ、ありがとう」「譲り合い」

地獄＝「自分勝手」「我さき」「悪い言葉遣い」「けんかする」「勝手な使い方」「自分のことしか考えない」

長 いい意見が、いっぱい出ましたね。



『もつたいたないばあさんのてんごくとじごくのはなし』
(真珠まりこ著／講談社)

長 ところで、今日の勉強は「利他の心」は善き心か悪しき心か、どんな心かということでしたね。さつきは「り」の意味を言いましたが、

では、「た」は、何でしょうか？ 「た」は「他」、他の人です。相手のためになることを考えて、ありがとうって言ってもらえることをするの。これが「利他の心」。では、「利他」は、善き心、悪しき心どちらですか？

児 「極楽！」「天国！」

長 そう、利他は極楽です。善き心ですね。

児 やったー！

長 あのね、「利他の心」とは、こういうことなのです。「人を幸せにすること」「人のためになることをすること」「人の役に立つようなことをすること」です。これが、利他の心です。では、考えてみよう。実際には、どんなことが「利他の心」なのか、具体的に教えてください。

児 「相手のことを思っ〜」「自分勝手なことはいらないで〜」「困っている人がいたら〜」「電車でお年寄りや妊婦さんに出会ったら〜」などでも、人のためばっかりしても、自分も幸せになれるかな？

長 なる！ 良いことをしたら気分がいい。

長 なる？ そう？ なぜだろうね。うん、そう。さつきのうどんのお話と同じだよ。だから、人のあるべき姿はこれなのです。「人を幸せにすること」「人のためになることをすること」「人の役に立つようなことをすること」これを忘れないでくださいね。

児 はい。

長 さて、こんな言葉もあります。「善きことを思い、善きことをすれば、善きことが生まれる」。これは、どういうことかわかりますか？

児 善いことをしたら、善いことが起こる、善いことが返ってくる。

長 例えば、お年寄りの方に席を譲るべきと考え、実際にどうぞと席をゆずれば、お年寄りには「ありがとう」と喜ばれるし、譲った自分も気持ちがいよくなる。そんなことです。さつきのうどんの話も同じ。反対に、こんな言葉もあるのですよ。「悪しきことを思い、悪

小学生が感じた「利他」。

●きょうのおべんきょうではじめてやったことは、いいことをおもって、いいことをすれば、いいことがうまれるということをしました。

だから、わたしが、これからきをつけたいことは、じぶんのことだけかんがえないで、じぶんもかんがえるけれど、ほかの人のこともかんがえたら、「ありがとう」っていわれてもしあわせだし、いいことをしてくれたひとほかのひとのことをかんがえて、しあわせになるとおもいました。

●こんどから、人のきもちをたいせつにしようとおもいました。ゆずりあいをしたいとおもいました。人をたいせつにしたいとおもいました。ひとのやくにたつことをやるよ。あと、人のためになれるようにがんばります。

●きょう、りたのがくしゅうをしたよ。これからぼくは、うそやごまかしにきをつけます。おじいさんやおばあさんやおとしよりにせきもゆずりあいします。



しきことをすれば、悪しきことが起こる」。これは例えば、ある子をいじめてやろう、からかってやろうと悪しきことを思い、実際にもをとったり、いじわるしたり、仲間はずれをしたりすると、された子たちは当然、悲しくて困る。そして、それ以上に最後には、いじめていた子の方も、やがては、一番の嫌われ者になって友だちもいなくなる、そんなことです。

授業のハイライトには、稲盛和夫氏も著書等でよく紹介されている「地獄と極楽のうどんの話」を選び、強い印象を与えるよう、三尺三寸（約1m）のお箸を用意しました。これは狙い通りの効果を発揮してくれました。さらに本学年は、絵本「もったいないばあさんのでんごく」と「く」という話の読み聞かせをしてもらっていたので、その経験・記憶も「利他の心」を理解する大きな後押しと

授業を終えて

小学1年生にとって、初めて聞くであろう「利他」という言葉。その意味と心の持ちようについてどのように伝えられるか考えた末、そもそも「利他の心」とは、良い心なのか悪い心なのかという視点でシンプルに授業を構成しました。

長 今日、「利他の心」ってどういう心かな？ 善き心である利他の心と思うと、どんなことをすべきかなという勉強をみんなと一緒にしました。利他の心ってどんな心かわかったよね。では、終わりに、今日の勉強で知ったことやこれからやっていきたいことをプリントに書いて、発表しましょう。

感想発表 ↓ 授業終了

児 これで、立命科の授業を終わります。ありがとうございました。

▼おわり

なったようです。児童たちは「極楽」と「地獄」の人々の言動の違いを対比して、しっかりと発表してくれました。

夏休み1週間前の授業でしたが、授業後は各学級で「りた」という言葉が、児童の間で合言葉の様に流行り、友だちを助け合ったり、家でもお手伝いを率先したりする子が増え、夏休みも良い雰囲気でした。と、担任教員から聞いています。小学生だからこそ、この様な「生き方」や「心をつくる」授業は、素直に心に入っていくのかもしれない。

立命館小学校で授業実践を検証検討し、今後、立命館小学校以外でも道徳の授業に取り入れてもらえるよう一般化していきたいと考えています。

(RITA4号より)

生きる力を育む！ 「レジリエンス」教育。

立命館守山中学校・稲盛和夫氏の青少年期に学ぶ

RITLABOでは、稲盛和夫氏の青少年期を題材に、「生きる力」を根っこで支える「レジリエンス」について学び、獲得できる授業の研究開発を行ってきました。

今号では、金井文宏研究員及び奥野美里が、2016年5・6月に実施した

立命館守山中学校での授業（対象…1年生158名）のレポートを中心に、授業の意義やレジリエンス獲得のための工夫についてお伝えします。

開発への思い

なぜ今レジリエンスが必要なのか？

レジリエンスとは、逆境を乗り越え、立ち直る力のこと。折れない心、回復力などともいわれ、近年、メンタルヘルスの課題と表裏一体となり、企業の人事や人材育成部門で注目のキーワードとなっています。その背景には、ITの急激な進化により労働現場が激変したこと、学生時代に困難を乗り越える体験が少なかったゆとり教育世代の「心の筋力」の弱さが挙げられます。

リスクと出会わないよう露払いをするのではなく、「リスクを乗り越える力」「挫折しても復活する力」を身につけることが、社会の現場で「正解のない問題」に取り組んでいかなければならない学生・生徒にとって、大きな力になると考えています。

稲盛和夫氏を支えた
レジリエンス。

学生時代から青年期まで、何度も挫折しながらも、その時々々に新しい考え方を取り入れ、気持ちを切り替えて復活・成長してきた稲盛氏。その著書や講演では、独自に編み出した「人生方程式」、人生・仕事の成

功⇨考え方×熱意×能力についてたびたび言及し、能力よりも熱意、そして何よりも、「考え方」が大切だと説いています。

これをレジリエンスの文脈に置き換えると、「現実をどのように捉えるか」ということ。実際、うつ病や適応障害などのカウンセリングの現場で活用されている認知行動療法、問題解決療法などで

は、医師やカウンセラーは、患者自身が認知（⇨物事の捉え方、考え方）を変える手助けをすることにより、回復へと導きます。

私たちRITLABOでは、生徒や学生たちが、稲盛氏の人生を追

体験して、考え方を変えて立ち直る瞬間に立ち会い、自身の体験と重ねて考えることで、彼らがレジリエンスを強化する手助けになる。そう考えて授業を創りました。



1日目

レジリエンスを具体的にイメージする。

【学習目標】

- ① どんな言葉をかけると、逆境を乗り越える助けになるか考える。
- ② 自分がかげられたい言葉を想像し、逆境を乗り越える「ポイント」を探す。

導入では、風や雪で大きく曲がっても、折れずに回復し、節目節目で大きく成長する「竹」を例に、レジ



グループワークでお互いの考えをすりあわせる生徒たちの様子。

- 鑑真——中国から仏教を伝えるため何度も嵐に遭い難破しながらも8度目に日本に到着した。
- ヘレン・ケラー——見えないう、聞こえない、しゃべれないという三重苦を乗り越えて勉強した。
- 火の鳥NIIPPON——バレーボール全日本女子チームが、何度もピンチに追い詰め

られつつもリオデジャネイロオリンピックへの出場を掴んだ。

レジリエンスについてのイメージはつかめた様子です。

次に、レジリエンスな人の例として稲盛和夫氏を紹介。京セラ株式会社やKDDIの創業者、JAL再興の立役者としての顔を見せた後、文字とイラストの紙芝居方式で、青少年期の「逆境ストーリー」を解説。

波乱万丈が当たり前、順風満帆とは正反対の稲盛氏だからこそ、子どもたちに、「二度や二度の失敗で人生が決まるわけではない」「逆境は乗り越えられる」というメッセージを伝

えることができると考えました。

グループワークでは、自分に引き付けて考えるために「もし自分の大切な人が、稲盛さんのような重い病気にかかったとき、どんな言葉をかけるか」という問いを投げかけました。生徒たちはペアで考えた言葉をiPadで提出し、スクリーンには生徒たちが考えた言葉が次々に表示されていきます。

「大丈夫だよ」「側にいるよ」「一緒にがんばろう」という思いやりのある言葉や、「あえていつも通りに接する」という回答に混じって「早く治して一緒に遊ぼう」という未来志向の言葉も目立ちました。

ICTで双方向の授業が可能に。

“知識として”理解するだけでなく、自分自身と結びつけて考え、気づき、レジリエンスを高めてもらうために、iPad（タブレット端末）と「ロイノート・スクール」というアプリを活用しました。生徒の回答を一挙にスクリーンに映し出し、多様な考え方を鳥瞰。その中からユニークなもの、みんなで共有したい考えをピックアップして大きく映し、その回答について解説したり、みんなの意見を聞いていきます。生徒の回答をもとに双方向で進めていくことができ、参加度の高い授業づくりに役立ちました。



稲盛氏の青少年期を追体験し、レジリエンスについて深く考える。

【学習目標】

- ① 「稲盛流・逆境の乗り越え方」を読み取る。
- ② 逆境を乗り越ええると成長できることを知る。

2日目は、稲盛氏の伝記から抜粋したテキストを読み、青少年期の逆境を追体験していきます。最初は、闘病生活について黙読し、稲盛氏が立ち直ったきっかけをペアで確認。一冊の本と出会い「考え方」を変えたことがきっかけとなったことを読み取りました。さらに、その本で特に稲盛氏の心を打った考え方「心の磁石」について質問。稲盛氏自身の気づき—よいように考えるとよいこ

とが起こる、悪いことばかり考えていると、悪いことが寄ってくる—について確認しました。

次に、大学卒業後に就職した会社での苦難とそこからの立ち直りに注目。「会社が経営難で給料も遅配し、同期入社仲間も次々に辞めていく中、稲盛氏がどのような考え方でこのピンチを乗り越えたのか」をテキストから探ります。給料が現金で支払われ、給料日には父親が給料袋を持って帰宅するのを家族で待ちわびた当時の時代背景を説明し、黙読を開始。グループワークでは、読み取った内容を議論して補完し合うためにテキストに引いたラインやメモを見せながら話し合い、

稲盛氏の心の軌跡をたどって、「立ち直り曲線」を描いていきます。

それらは、多様で個性的でしたが、最初の谷に注目すると、一つ大きな共通点がありました。それは、逆境を乗り越えた後、気持ちは元通りに戻るだけでなく、元の状態以上にプラスになっていくこと。ワークシートをはみ出す勢いで右肩上がりの曲線を描いたグループもありました。

最後に、立ち直りのきっかけとなった「考え方の転換」について話し合いました。「不平不満を言っていないも仕方がないと気づいた」「ここで死に物狂いでがんばってみると決めた」「楽しいと思えるまで研究に没頭した」こと、すなわちマイナスの考え方がプラスに変わったことが分岐点となったと、生徒の回答をもとに確認し、「考え方がすべての始まりなのです」とまとめていきました。

さらに、逆境に陥る前より成長する「PTG（心的外傷後成長）」について「稲盛さんは立ち直った後、落ち込む前より前向きに、成長しています。失敗や挫折はつらいけど、節目目で成長する竹のように、それが成長の糧になることもたくさんあります」と補足しました。



生徒たちが仕上げた「稲盛さんの就職後の立ち直り曲線」(心のグラフ)の一例。

生徒の気づき

- 稲盛さんの心境の変化、マイナス思考をプラス思考にすることがすごいと思う。逆境があるからこそ、成長するんだなと思つた。

- グラフ（立ち直り曲線）のどん底の時がみそ。どん底にいる時に自分が何を思うか、何をやるかが大事。

- 稲盛さんは研究で逆境を乗り越えた。だからもし自分も逆境にあるならば、自分のやりこめることを見つけた。



松風工業神足工場前に立つ稲盛氏。

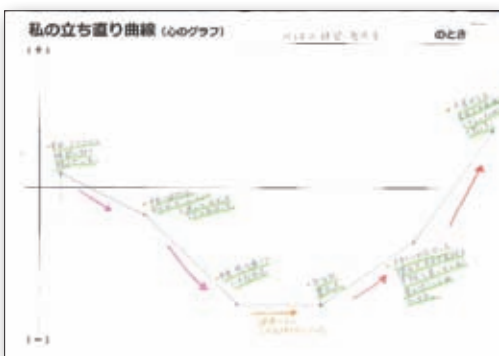
お互いの体験を話し合うことにより、 自らのレジリエンスに気づく。

【学習目標】

- 過去の立ち直り体験を振り返り、自分の立ち直り方を知る。
- 友達の立ち直り体験を聞き、さまざまな立ち直り方を知る。



ペアの相手と交替で自分の立ち直り体験を話す生徒たち。



生徒自身の過去の立ち直り体験を表現した心のグラフ。

この日は、2日目の授業で描いた

「稲盛さんの就職後の立ち直り曲線」について、①考え方を変える、②熱意を持って行動する、の2つのポイントを丁寧に確認。さらに、うまくいった時には素直に喜ぶことも大事とリフレクションして授業をスター

トしました。

3日目はいいよよ、生徒自身にスポットを当て、自分の体験を「立ち直り曲線(心のグラフ)」で描くワークを行いました。失敗や悲しみを乗り越えた経験だけでなく、ストレスやプレッシャーを感じながらもがん

ばったこと、工夫しながら成功したことなども可となりました。生徒たちは過去の体験を思い出し、時系列で事実を追いかけながら、その時の気持ちのプラスマイナスを立ち直り曲線に表現していきました。

次に、自分自身の立ち直り曲線をもとに、ペアで、自分の体験をシェアしていきます。話すこと、聞くこと、それぞれに意味がありますが、生徒たちには聞くことにスポットを当てて、「立ち直り方は人それぞれですが、自分の立ち直り方、考え方は、うまくいかない場合も出てきます。そんなとき、ほかの人の立ち直り方、考え方を聞けば、乗り越えられる可能性があります」と、その意義を説明。「立ち直り曲線」には描き切れなかった、立ち直るきっかけとなった出来事や、その時の感情について思い起こし、ペアの相手に伝えてもらいました。生徒たちは、「友だちのことを知りたい」「自分の体験が相手の役に立つかもしれない」、そんな思いからか、普段は見えないクラスメイトの考えや思いに触れたからか、ペアで活発に對話し、ワークに取り組んでいました。

終わりに

授業全体を通して、自力で立ち直ることに焦点を当てて学んできましたが、稲盛氏も、家族や友だち、学校の先生などの助けを受けて立ち直っています。素直な心で人に助けもらったり、自分から助けを求めることも大切です。さらに、自分という枠を離れ、仲間のために、社会のためにという利他の心で考え、行動する人は、レジリエンス力が飛躍的に高くなります。

(RITA3号より)

生徒の気づき

- (自分の立ち直りを聞いてもらって) 痛みを分かち合ってくれて嬉しかった。どんな人のどんな人生のピンチでも、新たな考えを見つけて、周りの人に支えてもらうことで、何とか乗り越えていけるんだなと思った。
- (話したこと) 自分が当時、気づかなかったことを感じられた。みんな色々な乗り越え方をしている、自分が逆境の時も、その方法で乗り越えられるかもしれないと気づいた。

JAL研究の成果を教育現場へ。 「働く」を「チーム」の視点で考える授業。

立命館高校GLコース2年生 ●「働くとは」Teaming@Companyへ」

授業設計・実施：RITLABO（金井文宏） 授業設計：RITLABO（谷口悦子）

2017年5月、稲盛経営哲学研究センターの金井文宏・谷口悦子グループのJAL教育プラットフォーム研究をもとにした教育プログラムとして、特別授業「働くとは」Teaming@Companyへ」を、立命館高等学校GL（Global Leader）コース2年生を対象に実施しました。研究から得た成果―考え方を变えることで働き方・組織行動が変わり、会社が変わっていくこと―を、「他者との協働（チーミング）のあり方を考察する」という視点で、授業を構成しました。

背景の異なる人と協働するためには？

京セラ名誉会長の稲盛和夫氏を会長に迎え、経営破綻後に史上最速の復活を果たしたJALの意識改革を例に、考えを变えることが自身の行動も変え、ひいては社会（会社）も変える力を持つことを伝える授業。企業理念を実現するために社員が持つべき具体的な考え方「フィロソフィ」が、共通の価値観や言語となつて、社員相互のコミュニケーションを高め、協働しやすくなることを紹介しました。

2015～17年のJAL調査で

は、好きなフィロソフィとして、「渦の中心になれ」「最高のバトンタッチ」を挙げる社員が多く、意識改革により活性化した職場では、「渦の中心になれ」を体現するような職場風土（誰でもCSを提案し渦を起こしやすく、渦が起こるとそれをサポートする周りの人々がいる、上司は渦を育てようとしてくれる）が醸成されることわかつています。「渦の中心となれ」というフィロソフィは、組織であればどこでも適用が可能な、組織行動の理想的モデルとなり得るのではないのでしょうか。

本授業では締めくくりとして、JALの現場の変化についての研究結

果を示しながら、生徒自身で渦を作ることを考える。生徒自身の組織行動について考え、クラスや部活動、地域や家庭でアクションを起こすことを皆で考え合うワークを行いました。

JALフィロソフィを部活やクラス活動に活かす。

JALの授業は、2016年度に立命館守山中学校で授業が始まり、さらに企業で協働して働くことにフォーカスして設計・実施しました。その結果、三つのことがわかりました。

- ① JALフィロソフィは生徒にも響き、それぞれの生活の中でも行動の軸となり得る考え方である。
- ② 経営破綻を乗り越え再生を果たし



生徒の意見をグラフィック・レコーディングで受け止め、インタラクティブな授業を行いました。



授業後の生徒の感想

JAL フィロソフィ・企業理念

- JAL フィロソフィの中の言葉はとても自分の心に響くものが多いので、自分もこの中の言葉を座右の銘にしようかなと思いました。
- 最高のバトンタッチ→これは私が昨年やっていた議長、学年代表、今年の副議長の仕事に役立つ考え方だと思います。

進路選択

- 自分達も大学を卒業したら、社会に出て、どこかに就職するから、やっぱり人間関係とか、自分の能力をいかせて、認めてもらえるような会社を選びたいと思いました。
- この授業を受けて、初めて経営哲学という言葉を知りました。そして、今までは『働く』という行為そのものが、ただ金を稼ぐための行為という印象でしたが、この授業で働くという行動が自分を高め、他の人を渦に巻き込み高めあう、人生を豊かにする行動であるということが、分かりました。今回の授業を活かし、仕事を選択しようと考えました。

JAL の意識改革・企業風土への共感

- JAL みたいに、自分の仕事を誇りとして、みんなに話せて、みんなも自分がしている仕事を認めてくれたらもっと頑張ろうと思えるからとてもいい会社だと思いました。社長は遠い上の存在で話したことないし、自分のこと知らないだろうな一みたいな会社がまだまだ多いと思います。でも JAL みたいに、下っぱの人でも社長と本音で話し合える機会があることがすごく良い環境をつくって、人気で強い会社をつくり出したんだなと思いました。一度、底まで落ちてしまった JAL をここまで大胆なやり方ででも成功させた稲盛さんの発想が本当にすごくて、そういう大胆な考え方を持つことも大切だと思います。

企業で働くことの認知変化

- 会社は決まった型に社員が合わせていくのではなく会社に勤めている人全員で会社をつくりあげていくという事です。いつもは教科書などの書物を読んで、景気の悪循環や行政の動きをその言葉で頭にインプットしていました、もちろん知識としてとり入れられますが、1つのことにフォーカスをさだめて深く、深く掘り下げる事はあまりなかったので今回 JAL という一つの会社にフォーカスして研究されている先生の講演がきっかけで本当に感謝でいっぱいです。
- 僕はこれまで、会社とはどちらかというと特に良いイメージはなく、オフィスなどで決められた仕事を作業的にこなすだけのように思っていました。しかし、今回授業で紹介された JAL はそういう所ではなく、働いている人、一人ひとりが主体的に考え、行動してどうすれば効率が良いか、どうすればお客様が喜んでくれるかということを目指していたのでとても新鮮に感じました。また、与えられたノルマではなく、自分で考えて行動しているので、なんだか働いて楽しそうだなと感じました。

立命館高校生に人気のフィロソフィ

再生の鍵となった企業理念について、「最高のバトンタッチ」「渦の中心になれ」等の JAL フィロソフィを題材に疑似的に JAL のミーティングを体験する内容となり、活発な意見交換が行われました。立命館高校 GL コースの生徒に人気があった JAL フィロソフィトップ3は、以下の通りです。

「常に明るく前向きに」

(4名)

- 暗い状況でも明るくいくことでポジティブになれる。ポジティブだと良い方向に向く。
- ネガティブになったら自分だけではなく周りの雰囲気まで悪くしてしまいかねないから。前向きだと何事にもチャレンジしていけるから。
- ネガティブはいいことがなく、自分で可能性を消してしまう。ポジティブだったら一つひとつの物事が楽しめる。
- 人生暗いより明るいほうが楽しいから。

「楽観的に構想し、悲観的に計画し、楽観的に実行する」

(4名)

- なるほどと思ったし、部活とかでも当てはまるから。こう思ったら気楽に目標を目指す。
- 特に理由はないが。
- 仕事において一番成功につながると感じたから。
- 最初から悲観的に始めても何も変わらないし、言葉通りだと思うから。

「地味な努力を積み重ねる」

(4名)

- 本当にその通りだと思うし、地味な努力を続けることが大切だと思うから。
- 毎日部活の朝練に行き、40分ぐらいだけ続けて結果が出るように頑張っているから。
- よく分からない事でも、いつものちのち役に立つことがあるから。私自身、大きいものに取り組むより、地味な作業が好きだから。
- ありきたりな言葉だけど、努力は必ず報われる。能力は人によって様々なので、自ら努力を徹底する。

た企業を事例にすることで、働くことに対するイメージが具体的、かつポジティブになる。

③ 進路選択を目前にする生徒にとつては、高校・大学の先の就職をイメージし、進路選択の一つの価値基準を示すいい機会となる。

この結果も踏まえ、対象者の学年や目的（キャリア教育・社会科など）によって、細やかな教材作成をするなど、よりこの研究を題材とした教材づくりを発展させていきたいと考えます。

(RITA7号より)

稲盛経営哲学による 学校経営を考える。

取材・文／金井文宏（本誌）

稲盛経営哲学を立命館附属校の経営にどう生かすのか？
附属校教員は稲盛氏のフィロソフィのどこに共鳴したのか？
中堅教員を中心とする「新しい時代の学校経営研究会」の方々に
話し合っていたきました。

日時：2020年8月21日（金）
場所：立命館大学朱雀キャンパス

参加者

- 白井有紀 立命館中・高／中学教頭・英語
- 酒井淳平 立命館宇治中・高／数学
- 山口太一 立命館慶祥中・高／社会
- 藤田翔平 立命館守山中・高／理科
- 鳥島裕之 立命館小
- 小笹大道 立命館一貫教育部／副部長・数学
- 川崎昭治 稲盛経営哲学研究センター／運営コーディネーター

今日は立命館附属校中堅教員の皆さんが、稲盛和夫氏のフィロソフィから学ぶ、「新しい時代の学校経営研究会」に参加して感じたり、考えたりしていることを話し合ってもらった座談会です。

昨年度の4～8月の5回の研究会では、京セラの教育部門の長から稲

盛経営哲学研究センターの客員教授に赴任された高津正紀氏（昨年8月に北京大学へ出講中に急逝）を講師として、稲盛さんが大切にされていた「現場主義」にもとづき、実践につながる学びを深められたと思います。

最初に、みなさんが高津先生との



小笹先生

対話から自らの教育実践について考えを深めたことを話してもらえますか？ 研究会のまとめ役でもある小笹先生からお願いします。

小笹 私は京都の公立中学校で教員になり、その後、立命館中高、立命館小で勤務した後、現在は立命館学園の一貫教育部で附属校などの教育をサポートしています。教員の仕事や教育支援において、私の軸となる

考え方として、稲盛フィロソフィにある「動機善なりや、私心なかりしか」を大切にしています。そして、当たり前のことが本当にできているのかという意味で「凡事徹底」を意識して仕事をしています。

こうしたことが日々できているのか、「反省のある毎日を送る」ことが重要と考え、稲盛さんでさえ日々反省しておられるので、「あの場面ではこうしていたらよかったな」と反省し、新たな気持ちで明日からの実践

に取り組もうとしています。そういう意味で、「お詫びとお礼がすべてに大事」と思っています。

鳥島 私は立命館小で、算数科の授業と教務部を担当しています。この研究会に参加するまでは、稲盛さんのことを経営の達人だと思っていましたが、学ぶにつれ経営のノウハウではなく経営の心が大切なのだとわかってきました。一番印象に残っているのは「全社員の物心両面の幸福を追求する」という理念です。自分と職場、そして自分と家族の関係についても物心両面の幸せを大切にしようと思うようになりました。

先日、8月の研究会では「コストパ」をテーマとして、学校経営の収支表を見て、自分たちの学校のどこに問題があるのかを話し合いました。「売上を最大に伸ばし、経費を最小限に抑える」というフィロソフィがありますが、学校組織が大きくなると経



鳥島先生

営に無関心になってしまっているので、経営が重要と再認識しました。

研究会に参加するようになってから、稲盛氏の著書『ガキの自叙伝』を読み、稲盛氏の経営の原点は「生き方」にあることがわかり、その後も『心』など著書を読み続けていきます。その中で「反省のある毎日を送る」というフィロソフィの重要さがわかってきました。小学校で教務を担当していると「自分本位の勝手なことを言ってる」とカチンときて、「同じ熱量で反論することがありませんが、日々の反省により少なくともなってきました（笑）」

藤田 稲盛ライブラリーを訪問した時に、いろんな言葉があった中で、「仕事を愛しなさい」という言葉が刺さりました。やりたくない仕事があっても、自分が任せられた仕事を受容してしっかり取り組もうと考えるようになりました。これまでは、仕事で「不

平不満」を口にするのがあり、自分には発散になっていても、周りには負の影響を与えていることに気づきました。

この学校に赴任した頃、何人かの先輩から「何でもハイと受け入れてやりなさい」と言われ、自ら「毎日ゴミを拾う」「毎日、下校指導する」などを愚直にやったことを先輩や同僚が見てくれていて、「お前がそういうやり方で仕事をするなら助けるよ」というようになってきました。

最近そのことを強く感じたのが、中学校での勤務経験しかない私が中1〜高3の探究学習の発表会を任せられた時のことです。担当にあたっていないにもかかわらず、同僚の先生たちが細かいことまで支えてくれて助かりました。

酒井 立命館高校で3年の担任をしていた時の生徒の中に藤田先生がいました。その後、立命館宇治に勤務し、個人的に稲盛さんの本を読んでいますでしたが、今回、小笹先生の誘いで研究会に参加しました。

共鳴する稲盛哲学は「人生方程式Ⅱ 考え方×熱意×能力」です。「考え方」が一番の鍵ですが、かけ算ということもポイントで、その効力が一気に大きくなると感じています。



藤田先生





酒井先生

手のために若手をつなぐバイパスになればいいと思って参加しました。若い人とともに稲盛哲学を学んで学校に大きな渦を起こしたいと思っています。稲盛さんには敵わないと思っていますが、企業でも学校でも心の面では同じなので、学ぶことは多いです。

研究会に参加して驚いたのは、高津先生に稲盛和夫氏の理念について質問した際に、稲盛さん本人ではないのに自分の言葉で熱く話されることでした。「理念浸透」とはこういうことなのだとわかりました。行動の面では高津先生から「継続が重要だ」と言われたことも印象に残っています。参加者が少ない時でも研究会を積み重ねて継続することで、会の雰囲気も変わってきました。

「反省のある毎日を送る」ことが重要と思い、学年会で節目にふりかえりをして、先生間で分かちあひ共有する、シェアすることを大切にしようになりました。この研究会に2人の立命館宇治を愛する本校出身の先生が参加していることも嬉しいことです。彼らが成長して立命館宇治の真ん中に座った時が、宇治の伝統が受け継がれる時だと思っています。

白井 小笹先生に誘われた時に、若



白井先生

稲盛哲学ということでは、アンテナをピンと張りながら学校中を歩き回っての「有意注意」、生徒を含め周りの人に「エネルギーを注入する」ことを大切にしています。「(楽観的に)大きく考えて、計画する時は悲観的に考え抜き、行動するときには楽観的に」というフィロソフィも実践できるよう心がけています。だんだん稲盛さんの言葉と自分の行動が少しずつですがリンクするようになってきています。

この研究会は、若い人の考え方も入ってきて、若い人から吸収させてもらえることが魅力です。

〈参考資料〉「新しい時代の学校経営研究会」の取り組み 川崎昭治

(立命館大学稲盛経営哲学研究センター「研究成果報告集」2020年より)

運営：稲盛経営哲学研究センター 高津正紀(講師)、川崎昭治(コーディネーター)、長谷川昭

協力：京セラ稲盛ライブラリー 橋浦佳代 岩崎彦彦

参加者：立命館附属校教諭・23名

(立命館中高5名、立命館宇治中高5名、立命館慶祥中高6名、立命館守山中高4名、立命館小3名)

本研究会は1年目人生哲学、2年目経営哲学、3年目学校経営哲学という流れで、1年目の2019年度は昨年8月に中国で急逝された高津教授を講師として開催された。

以下は、1年目の第1回から第5回までの議事録(小笹大道教諭作成)から講義内容を中心にまとめたものである。(要約版)

第1回研究会(2019年4月22日)

●研究会の趣旨及びゴール設定について議論を行い全員で確認

(高津教授の発言) 研究センターのミッションは、「稲盛経営哲学の普遍性と一般化」を明らかにしていくことです。実業界でまとめられた稲盛哲学が、業界を越えて教育分野においても有効であるのか、研究会を通して確認していきたいと考えています。また、稲盛さんも教育には大変高い関心を持っています。

本日、多くの先生方が現状に「危機感」を感じているとお話になりました。研究会では、この危機感を背景に、稲盛哲学をただ単に知識として学ぶのではなく、現実の解決に向けて、どのように自分を変革し、行動や実践を行っていくのかを強く意識しながら進めていくことが重要であると考えています。京セラでも盛和塾でも、稲盛さんが大切にしてくられた「現場主義」にもとづき、実践につながる学びを行っています。この研究会が、稲盛哲学を学んで終わりということではなく、各学校や教育現場で実践され、またその成果を最終的に事例集としてまとめられ、規範づくりを目指していかれるというのは、良い方法であると思います。

第2回研究会(2019年5月27日)

●稲盛哲学「人生方程式」の講義

人生方程式、人生・仕事の結果＝考え方(1000)÷100)×熱意(0)÷100)×能力(0)÷100)は、既に周知のとおりである。



山口先生 (Zoomで参加)

小笹」と言われているので、「怒り」はありませんよ(笑)

今回の研究会、附属校の先生にお声がけをする際、一緒にこれからの立命館を創っていきたいという思いでした。「可燃性、可燃性、不燃性」「渦を起さず」、これらのフィロソフィは私のテーマでもあります。私流の言葉で言えば、「箸よく盤水を回す」です。渦をどんどん大きくすることのできる可燃性のリーダーシップをとれるように意識して行動しています。

今、教育支援に行っている東明館中高でも最初は私が火をつけていく、しかしやがて現場の先生たちで勝手に燃えていってもらうことを目指しています。

藤田 守山では渦を起こしにくいと感じることもあります、黙ってまずやってみるようになっています。「やってみると面白かったよ」と自分で本当と思うことができれば、やがて周りを巻き込めるようになります。

以前、学校主催の教員研修に、管理職の先生が自由参加とした上で、「来ても4人かな」と言われたことがあります。私は仲の良い先生たちと何とかしたいと思い、研修の宿

考え方は、善い考え方(一)、悪い考え方(二)で結果がプラスとマイナス、正反対になってしまう。戦後、どんな考え方を持つのも自由だと言われてきたが、持った考え方によって、180度人生が変わるものであることまでを含めて、問われてはいない。悪い心であっても熱意と能力があれば、一時的な成功を収めることができる。しかし、長期的視点で見ると、長続きせず、大きなマイナスとなる。

●「高い目標を持つ」

稲盛氏の創業時の自筆のノートには、次のようなことが書かれている。

- 1 世界の視野に立つて、世界に伸びよう
- 2 未知の世界に向かって、開拓精神を活かそう
- 3 人の避けるものに進んで取り組もう

第3回研究会 (2019年6月17日)

●「有意注意で判断力を磨く」「地味な努力を積み重ねる」

「有意注意」とは、目的をもって真剣に意識を集中させ、気を込めて現象を見つめることである。稲盛氏は、常にささいなことにも注意を注ぎ、それが習性になった結果、感度・感性が磨かれて、物事の本質を直ちに見抜くことができるようになっている。また、同じものを見たり、聞いたりしても普通の人が感じる以上の気づきを得ている。「顕在意識」だけではなく、「潜在意識」を働かせなければならぬ。それとともに「高い目標を掲げる」とセットで理解しておいて欲しいフィロソフィは「地味な努力を積み重ねる」である。目標を高く掲げながらも、これを実現するためには、目の前の地味な努力の積み重ねが必要であり、高い目標を達成するためには、この方法しかないとの補足指摘もあった。

●「心を高める」ことは、「反省ある人生をおくる」ことである

「心を高める」ためには、自分の「損得」と離れて「人間として何が正しいのか」という「善悪」で判断することが、大切である。稲盛氏本人も、自分がまとめたフィロソフィであっても、毎日、フィロソフィの通りの判断や行動ができていたのかを謙虚に反省する日々を送っていると言われている。私たちの心は、その時々によってゆれ動いている。精神的に余裕のある時は冷静に正しい判断や行動がとれても、体調が悪い時には根気や粘りがなくなったり、調子がよい時でも深く考えずに判断し、行動してしまったりすることがある。稲盛氏はそれを、毎日謙虚に反省を繰り返すことにより、自らを戒め、フィロソフィを身に付ける努力をされている。

小笹 山口先生、私は「エンジェル

もうダメだという時でもここからが仕事なんだと思い、最悪の事態も想定して取り組み、いい仕事をやっていこうと思うようになりました。そういう困難な時に自分を支えてくれる哲学、それに寄りかかりたいと思う人生哲学が稲盛フィロソフィです。

題であった「事前に映画を一本見る」に正直に取り組み、「あの問いかけは重要だよな」などと周りにしゃべり、PRしていききました。結果、研修に50人ほどが集まってくれました。

こういう実践が「渦の中心になる」「可燃性の人が可燃性の人を燃やす」というフィロソフィではないかと思っています。

鳥島 小学校に来てから、新しいICTのシステムの導入を任されています。校務支援システム、採点支援システムなどです。ワーキンググループで商品の選定をして購入しても、ICTが苦手な人がいて使われないことが多かったのですが、苦手意識の人たちに一人ずつ付きっ切りで教えていきました。そしていざやってみると「採点業務が速くなる」とみんなが実感してくれて学年中に広まり、採点支援システムは今では6学年のうち4学年が導入しています。

私はICTの動かし方をメモして見せたり、動画で撮ったものを見せたりして普及活動を進めており、その結果、働き方改革に貢献しているという実感を得ています。これが私流の「渦の中心」「可燃性」の実践かなと思います。

酒井 新型コロナウィルスの感染拡大があり、登校禁止になった時に、遠隔指導が始まりました。SHRを全クラスで実施するなど学年で遠隔指導を工夫しつつ、さらに保護者会も遠隔でやろうと学校組織に働きかけましたが、全体で実施するのは大変です。

それでも自分たちの学年からオンライン保護者会を始めようとなりました。こういうことが「渦の中心」「可燃性」だと考えています。ZOOMの教員研修実施など、登校禁止期間は学校のあちこちで渦ができていたように思います。

山口 コロナに関する学校側の対応については、みんなアイデアを出して変えていきました。いくつかのフェーズがあり、5月のゴールデンウィークまでがフェーズ1で、在宅学習を支援しながら委員会や部活もできるように、オンラインを普及していきました。

そうした活動の中心人物は、関係性やチームワークを大切にすることで、当事者意識もあり、学校の未来に向けて熱意がある人です。経営者感覚（オーナーシップ）のある人です。コロナのような混乱期にそういう人がはつきりと出てくると思います。

● 人生方程式の「熱意」と「大義や使命」「思いや夢・願望」

「考え方」（哲学）は最も重要ではあるが、ものごとを成就するのは「熱意」にかかっている。熱意は使命感や責任感から生まれてくるが、組織として重要なものに「大義や使命」があり、個人としては「思いや夢・願望」がある。稲盛氏はこの両方も非常に重要だと考えている。

第4回研究会（2019年7月8日）

● 組織で働いている誰もが、理念・哲学を共有しているか？

「教育方針を実現するための事例を効果の高い順番につけてください」との課題が出され、参加者で意見交換を行った後、高津教授から今回の課題の意図について次のように述べられた。

「時間や経費が限られているなかで、企業は常に『費用対効果』を考えてアクションを決定していますが、学校運営でも、同様の判断が下され、それを先生方が理解されているのかどうか知りたいと思ひ設定しました。学校運営の判断・行動基準が確立され、先生方がそれを納得し理解されることで、活動もより効果的なものになると思います。学校運営には、正規・臨時の教員や職員、作業委託者など様々な方々が携わっておられると思いますが、外部の方からは全員が立命館メンバーとして見られ判断されます。稲盛哲学では、雇用の形態に関わらず、全員が同じ理念・哲学を共有していることが大切だと説かれています。京セラではパートナーにも稲盛哲学の教育を定期的に実施しています。」

第5回研究会（2019年8月1日）

第1ステップ「人生方程式の深掘り」を終えるに当たって改めて稲盛氏が最も大切にしていることは何かの講義が高津教授からなされ、次いで稲盛氏の講演ビデオの視聴を行った。

● まず思うことが大切、思いがすべてのスタート

● 仕事を好きになる人は自ら燃える

熱意の源は夢であるが、自分がしんどいときに、熱意はなかなか維持できない。三毒（愚痴・怒り・利己）を排し、マイナスを引きずらないようにしなければならぬ。自分が燃える一番の良い方法は仕事を好きになること。好きな仕事にあたる人は、宝くじにあたるより低い。その中で、どう仕事と向き合うかが大切である。仕事が好きになれば「誰にも負けない努力」が可能である。では、仕事を好きになるにはどうしたらよいか。「仕事に酔う」ことである。常に夢を抱いて、その夢に自分が酔う。自分の思っていることやアイデアに惚れてしまうのである。そのた

どういう人が渦を起こすのか、見えてきたのです。しかし一番重要なのは、学年主任や管理職をはじめトップの多様な意見を受け止め、肚を決めて挑戦を支える姿勢だと思っています。

白井 「渦を作って巻き込む」のは、学年主任をやっている時の方がやりやすかった。「みんなでこれをやろう、ワー」とやっていたのに、教頭になった今は命令っぽく取られてしまう。私の役割は若い先生が渦を起こすための下書きをすることだと考えています。コンパも活用して、若い人が渦を起こせるような職場にしたいと思っています。

少しずつ参加者が利他の心で行動できるようになっていますが、この研究会を運営継続できること自体が財産になります。今後はみんなで教育の果たすべき役割は何かをちゃんと考えていきたいと思えます。

川崎 今日はいろいろと話を聞かせてもらって嬉しく思っています。これまで学校を超えて自主的に話のできる場が立命館にはありませんでした。稲盛氏のフィロソフィを学びつつ、30代〜40代の若手が意見を交わす場がほしかったので、この研究会



川崎先生

を立ち上げました。最初の頃は悲惨で、参加者は少なく、遅刻・欠席も多かったのですが、フィロソフィを学ぶにつれてだんだん利他の心で行動ができるようになり、参加者も増えてきました。自分が最後に立命館に何かを残すとしたら、この場を継続することだと思っています。

世界は大きく変化してきています。平成の30年、その変化に日本はついて行けず取り残されました。コロナで世界は今停滞していますが、コロナ後、世界の変化はさらに劇的なものとなるだろうと言われていました。その時、教育はどういう役割を果たすのか、立命館もそれが問われています。この会のメンバーがその変革の渦の中心になっていることを願うものです。

めにも、楽観的に構想し、悲観的に計画し、楽観的に実行することでどんどんアイデアを出していただきたい。会社は人のやっていないことにチャレンジして生き残っていく場であるので、今の常識で考えていけば新しいものは生み出せない。だからこそ、楽観的に構想し、チャレンジしていく必要がある。

● **エネルギーを注入するのはリーダーの最も重要な仕事**

困難に出くわしたとき、ひるんだり、信念を曲げてしまうような妥協をしがちである。その時、自分の想いを部下に注入することは、リーダーの最も重要な仕事のひとつである。

● **能力は未来進行形でとらえる**

新しいことを成し遂げられる人は、自分の可能性を信じている人。そして無限であるという考えを持っている。アメリカのケネディは、月に人を送ると先に決めた。そのときに見込みがあつて決断したわけではなく、先に決めてから後付けでやれる方法を考えたという話があるが、このことを示す良い例である。今、できそうだと思っていることをやっている人は普通の人であり、今、できそうにないことをやろうとしている人が新しいことをする人である。そのときに最も必要な能力について稲盛氏は、「常に正しい判断ができる能力」だと言われている。以前に伝えた「有意注意」ができることである。この判断を誤れば、会社がつぶれることを背負って判断しなければならぬ。さらに「正しい判断」を行うために必要なものがあるが、それは「実行力」であり、「真の勇氣をもつ」ことである。真の勇氣とは、自らの信念を貫きながらも、節度があり、怖さを知った人、つまりピビリもつた人が場数を踏むことによって身につけたものでなければならぬ。

● **他力を得る**

「人間として正しいことを正しのままに貫く」 ↓ 普遍的に正しいことを追及する
「利他の心を判断基準にする」 ↓ 利他の心は人を惚れさせる
「感謝の気持ちを持つ」 ↓ 今あることに感謝できる心

「才能を私物化しない」 ↓ みんなが幸福になる秘訣
「世のため人のために尽くす」 ↓ 世界・社会・集団のために才能を発揮する

● **人格を高める2つの方法**

1 生き死にかかわる様な衝撃的な不幸や災難に遭ったとき、修羅場・鉄火場を経験したとき

2 日々の仕事や教育・研修を通して自分の人間性に対する反省を意識的に繰り返したとき

● **充実した人生を実現する方程式の完成**

京セラ・KDDI・JALグループを哲学経営で率いてきた稲盛和夫氏。
このシリーズでは、社員の皆さんが稲盛哲学をどのように咀嚼し、
自分のものとしているのか、仕事での実践についてお話を聞きます。
今回は、京セラで教育部門を担い、本センターへ出向し研究員をされていた
高津正紀氏が「フィロソフィによる学校づくり」を語ります。



高津正紀

フィロソフィ

フィロソフィによる学校づくり

元立命館大学 稲盛経営哲学研究センター 客員教授
(2019年夏、北京大学出講中に逝去される)
高津正紀

組織運営やリーダーのあり方、リーダーシップなどについてまとめられたフィロソフィには、学校教育にも参考となる要素が含まれていると考えています。JALはフィロソフィによって劇的に経営を改革されました。学校経営や運営に携わる方々にとっては、大変参考になると思います。

またフィロソフィの人生哲学には、よりよい人生を築いていくために必要な考え方や判断の基準が行動の指針としてまとめられています。先生方や教職員の皆さんの、日頃の課題の解決や悩みの解消のヒントとなると共に、将来有望な人材を育成するための教育プログラムの作成にも役立てられるのではないのでしょうか。

基本的な学力を高めると同時に、どのような考え方や判断の基準を持って人生を歩むのかによって、人生の結果が大きく異なってくることを若いうちからしっかりと学び、人生

の指針となるフィロソフィを自分でしっかりと作り上げていくことが重要だと考えています。

現在の教育は、「暗記力」や「理解力」に力点が置かれていますが、今後はさらに「世の中を渡っていく力・力強く自分の人生を築いていく力」生きる力」をつける教育が必要ではないかと思えます。

そのために「人間力」や「創造性」をどうやって高めていくのか。フィロソフィをベースにした教育プログラムは、「人間力」と「創造性」の育成に貢献できると考えています。

RITALABOでは、稲盛名誉会長の青少年期のレジリエンスな生き方をもとにした教育プログラムを開発されました。

通常会社では、仕事で悩みながら、時には失敗し苦しみながら、体験を通して成長していきます。今回、「稲盛氏の青少年期の自伝」など、困難な状況に置かれた人々の「レジリエンスの追体験」や、「過

去の体験の振り返り」などで授業をつくられ、自分のこととして考えられるように苦心されたと思います。

また、立命館附属校と連携し、JAL再生に関する研究をベースにした教育プログラムづくりに取り組みられていると聞いています。

稲盛名誉会長の生き方・考え方をもとにした教育プログラムの導入は、「道徳」「社会科」「キャリア教育」などではもちろん、「部活動」「特別教育活動」で取り入れることも考えられるのではないかと思います。

社会では多くの人々と協力して、世の中に新たな価値を生んだり、貢献していくことが求められています。フィロソフィのベースになっている「利他の心」がそのキーワードになると考えています。

また、意外に思われるかも知れませんが、「理科」にも活用できると思います。フィロソフィはもとも、稲盛名誉会長が創造的な技術開発を行うなかで生まれてきたものです。原理原則を徹底して追求する「探究心」を育むことや、人間として正しいことを正しく正しくというフィロソフィは、科学者、技術者の倫理観を育てることに役立つのではないのでしょうか？

(RITALABO 3号より)

RITA LABO は、稲盛経営哲学研究センターの教育実践研究部門として、利他の心を軸に、教育の未来を切り拓きます。

利他ラボ RITA LABO <http://www.ritalabo.jp>

